

美術科学習指導案

指導者 重本 優紀

- 1 日 時 令和 6 年 11 月 16 日（土） 第 2 校時（10：05～10：55）
- 2 学年・組 中学校第 1 学年 2 組 計 40 名（男子 19 名，女子 21 名）
- 3 場 所 中学校美術室
- 4 題 材 名 カプセルトイの提案
- 5 題材について

本題材は、中学校学習指導要領（平成 29 年告示）美術第 1 学年の内容 A 表現（2）ア（イ）、A 表現（1）イ（イ）、B 鑑賞（1）イ（ア）、〔共通事項〕（1）アに重点を置いて指導を行う。東雲図画工作科・美術科がめざす生徒像にかかわって、生徒が「自分らしい感性にもとづいた美意識をもち、身の回りのさまざまな対象や環境に主体的に働きかけながら学校生活をよりよくしていこうとする」態度を育むことを目指して設定した。本題材で取り上げるカプセルトイは、ミニチュアのおもちゃとしての役割があるだけでなく、地域の活性化にかかわって地域の特性を宣伝するために「ご当地もの」を取り入れてデザインされたものや、使う人がそのおもちゃに癒しを感じたり、新しい発見をしたりするなど、人の心に働きかける工夫が取り入れられているものなどがあり、生徒が生活を美しく豊かにする美術の働きについて身近に考えやすい題材である。また、ひとつのテーマについて複数のパターンがあり、使う人がすべてのパターンを集めたいくなるような工夫を試行錯誤できる題材でもある。本題材では、テーマを「東雲中学校のクラスター活動を PR するためのカプセルトイの提案」と設定する。本校のクラスター活動は、生徒が異学年縦割りの 6 色のグループ（以下クラスター）に分かれ、学校生活や行事などの場面で仲間と助け合い、絆を深め合うものであり、本校の伝統的な活動である。この提案は、生徒が自分たちの生活や楽しみをもとに主題を生み出し、地域や後輩、仲間へ主体的に働きかけることができるテーマだと考える。PR の内容は、クラスター色を表すもの（例えば色からイメージするモチーフを選ぶ）、クラスターの思いをイメージ化したもの（例えば仲間が集い協力する様子を粒の塊であるブドウで表す）、行事で使う道具（例えばはちまき、かるた）を盛り込むことなどが考えられる。素材は樹脂粘土を用いる。樹脂粘土は造形の際に細部まで表現しやすい素材であり、一般的なカプセルトイの質感に近い。着色は粘土にポスターカラーを練り込んだり、表面に直接彩色したりする。

本学級の生徒は、テーマに沿って制作をする際に、様々な形を選んだり、組み合わせを工夫したりするなど、自分らしさを表現する工夫を楽しもうとする姿が多く見られた。一方で、デザインをする際に、目的や条件と自分の思いをすり合わせたり、自分がつくりたいものを形にするためのイメージを抽出したりすることに難しさを感じる様子があった。そこで、カプセルトイの提案という、大きさに制約がある、立体物にする必要があるなど、目的や条件がある中でどのように自分の思いを表現するかを考えることに挑戦する活動を取り入れることにした。活動の中で試行錯誤する経験を通して目的を達成する喜びを味わえるようにしたい。生徒はこれまでに色の性質について学習し、色彩が見る人の気持ちに影響を与えることや、見る人によって感じ方が変わることなどを学んでいる。また、スケッチを通してものの特徴を捉える活動をしており、本題材においてさらに身の回りにあるものの造形的な美しさを感じ取る力を伸ばしたい。

指導にあたっては、生徒が自分自身のクラスター活動を振り返りながら構想を練ることができるように、ワークシートに記入し小グループで共有する活動を取り入れる。アイデアスケッチの段階で形のパターンをいくつか考えられるようにワークシートの枠をつくり、見る人に魅力が伝わるようなトイになるように、おもちゃらしい大きさや形の丸みを出したり、配色をしたりできるよう意識付けする。制作

の際には、大きさのイメージができるようにカプセルを準備する。また、粘土の性質を生かして計画的に制作することができるように、試作を重ねながら構想を練り直す活動を取り入れる。生徒の活動を見取る際にワークシートの記述や生徒の発言を基にして、生徒がつくりたいものを表現するための方法について、立体感の出し方や見る人の感じ方を考慮した配色、また粘土の扱い方などを具体的に提案し、生徒の思いと表現の技能がつながるように留意する。

6 題材の目標

- (1) 形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解する。また、粘土やポスターカラーの特性から制作の順序を考えながら見通しをもって表す。
- (2) 伝える目的や条件などを基に伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練る。また、身の回りにある自然物や人工物の形や色彩などの造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして見方や感じ方を広げる。
- (3) 身近なものの中にある造形的な美しさを感じ取り、生活を豊かにするための工夫に関心を持ち、楽しく美術の活動に取り組もうとする。

7 指導計画（全9時間）

次	時	学習内容
1	1～2	カプセルトイの構想を練る
2	3～7	カプセルトイの試作品をつくる（本時5／9）
3	8～9	カプセルトイを提案する

8 本時の目標

自分がつくりたいものを表現するための見通しをもって制作する。【知識・技能】

9 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
1. タブレットの自己評価を振り返り、本時の見通しをもつ。 ・ 前時に書いた「次に頑張ること」の確認 自分のつくりたいものを表現するための見通しをもって制作する。	○ クラスター活動の PR としてつくることを意識付けする。
2. 前時でつくった試作を基に構想を見直し、ワークシートに制作の手順を考えてかく。 ・ 粘土の質感の生かし方 ・ ポスターカラーを練り込む／直接着色する ・ 粘土ベラ、クリアフォルダーなど道具の使い方	○ 制作の手順を考えやすくするための視点を押さえる。 ・ 形や大きさの制約 ・ 色の選択 ・ 粘土の性質 ・ 道具の効果的な使い方

3. ワークシートにまとめたことをグループで共有し、お互いの手順を確認し合う。 4. ワークシートを確認しながら制作する。 ・粘土の分量を考えて分ける ・色を練り込む ・成形する 5. タブレットで制作過程の写真を撮り、粘土の保存方法を考えて片付ける。 ・乾かす場合はそのままケースに保存 ・乾かさなない場合はラップを巻き袋かケースに保存 6. タブレットに自己評価を入力する。 ・できたこと：ワークシートの計画のどこまで進んだか ・感想：この授業で考えたこと ・次に頑張ること：次の時間にどこまで進めようと思っているか、修正したいことはあるか ・困ったこと	○ 制作方法を共有することで見通しをもちやすくする。また、アドバイスし合いながらつくることができるように促す。 ○ 試行錯誤しながら制作できるようにワークシートを修正してもよいことを伝える。 ◆ 形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解し工夫して表そうとしている。また、粘土やポスターカラーの特性から制作の順序を考えながら見通しをもって表している。【知識・技能】 ○ ポートフォリオとして活用できるようにするため制作過程は授業終わりだけでなく、手順が進むごとに記録するよう呼びかける。 ○ 試行錯誤しながらつくること、その中で見通しをもって進めていく大切さを伝える。 ・計画を修正しながらよりよいものにしていくこと ・「次に頑張ること」が次時のパフォーマンス課題になること
---	---

10 授業の分析

本実践では、生徒と教師が目標を共有し、生徒がより主体的に学ぼうとすることができるようにするため、教師が題材を通して生徒に身につけさせたい資質・能力に関するループブリックと、生徒自身がめざす目標の到達度を測るための自己評価を取り入れ授業を行った。生徒が個々に表現したいことを追求し、造形的な資質・能力を伸ばしていくために、教師はその過程に寄り添い、教材研究や生徒の実態把握に基づき個々の見方や感じ方を幅広く捉え価値付けする柔軟さや包容力を発揮する必要がある。教師がもつループブリックと生徒の自己評価をあわせて行うことで、教師が授業のねらいをどこまで達成できたかを知り、生徒自身がどこまで自分の主題を追求できたのかをメタ認知できるようにするための基準の具現化をめざした。

(1) 教師がもつループブリック（本時）

基準	具体的な生徒の姿
III	前時までに制作した粘土の質感や色みをもとにワークシートにある構想を見直し、素材の性質を生かしながら自分がつくりたいものを表現するための方法を理解し工夫してつくっている。
II	前時までに制作した粘土の質感や色みをもとにワークシートにある構想を見直し、自分がつくりたいものを表現するための方法を工夫してつくっている。
I	前時までに制作した粘土の質感や色みをもとにつくろうとしているが、自分がつくりたいものを表現するための方法を選び取っていない。

手立て
① 試作を重ねながら構想を練り直す活動を取り入れる。 ② カプセルトイを使うことを考えて制作に取り組めるように、実際のカプセルトイの大きさやおもちゃとしての丸みや色みのよさに気づけるよう視点（形や大きさの制約、色の選択方法など）を押さえる。 ③ ワークシートの記述や生徒の発言を基に生徒が作りたいものを表現するための方法（立体感の出し方、配色、粘土の扱い方など）を具体的に提案する。

（２）学習者の自己評価

- ① ワークシート（資料１）に構想を練ったり制作の計画を立てたりしたことを記録し、制作のはじめや途中段階で確認しながらつくる。
- ② 授業終わりにワークシートを振り返ってタブレットに記録し、ポートフォリオとして活用しながら次時の見通しをもつ。（図１）

図１ タブレットの自己評価表

（３）授業を通じての成果と課題

- ① 教師がもつループリックについて

本時の目標である生徒が作りたいものを表現するための見通しをもって制作することができるようにするための手立てとして、ワークシートの記述や生徒の発言を基に制作の方法（立体感の出し方、配色、粘土の扱い方など）を具体的に提案していった。とくに、タブレットで作成した自己評価表を毎授業後に確認し、制作方法やできたことについて生徒が具体的に記述した部分に線を引き評価をした。また、感想や困ったことに記述している内容にコメントをすることで生徒が制作のはじめに制作の進め方を確認できるようにし、前時までの生徒の困り感を把握して教師の本時の指導に生かせるようにした。これらのことを毎授業積み重ねていくことで生徒が自分なりに見通しをもって制作したり、必要な視点を把握したりすることが容易になると考えた。実際の授業では、困ったことの欄に制作方法について質問を記述する生徒が見られた。例えば、「細かいところに気をつけていきたい」と思っている生徒からの「キャラクターの付属品であるゼッケンをどのようにつくればよいか」といった細部の造形についての質問や、つくった色に満足して本時を終えた生徒からの「次回にまた同じ青色の粘土を一から作ろうと思うが、同じ色にするコツはあるか」といった色の作り方についての質問など、次回の改善点を意識した質問が出てきた。これらの様子から、自己評価表をていねいに見取り教師と生徒のやり取りを進めることが、生徒が作りたいものに対して主体的・自主的に取り組む姿につながったと考える。

ループリック評価について、基準Ⅱにあたる生徒は全体の８割であった。本時において基準Ⅰにあたる生徒もいたが、本時後の授業を経て基準Ⅱを達成した。教師がもつループリックと生徒の自己評価を照らし合わせて制作の様子や作品を見取することで、評価の根拠が明確になり、授業の分析・評価をスムーズに行い、指導につなげることができた。

② 学習者の自己評価について

タブレットの自己評価表に生徒が記述した内容（資料2）について考察する。

自己評価表には「できたこと」「感想」「次の時間に頑張りたいこと」「困ったこと」の4項目で記述を行った。生徒は授業の初めに前時に記述した「次の時間に頑張りたいこと」を確認し、授業の終わりに「できたこと」の欄にABC評価と記述をした。生徒の記述から、A評価をつけた生徒（14／40人）は、目標を確実に達成できたことや目標だけでなく次の課題に取り組めたことについて記述していた。例えば、「次の時は粘土に入れる絵の具の量に気をつけて頑張りたい」という目標に対して「絵の具の量に気をつけて綺麗な色にすることができた」といった目標とのつながりを意識して記述しているものなどがあった。B評価をつけた生徒（10／40人）は、目標を達成したが、制作の過程に困難さを感じたり課題が見つかったりした内容を記述していた。例えば、「形を整えながら綺麗に作る」という目標に対して「爪あとができてしまった 形が歪になってしまった」といった成形に関する課題を挙げた生徒がいた。この生徒は次時の授業でこの課題に取り組み「しっかり乾かして（粘土板から）剥がすこと」という解決方法を見つけた。C評価をつけた生徒（2／40人）は、授業では試行錯誤しながら制作している様子が見られたが、授業内で形に表現するところまで到達できなかったことについて記述していた。例えば「白虎の鼻や口などのパーツの試行錯誤で終わってしまった」といった記述である。C評価をつけたこれらの生徒については、本時後の授業で目標を達成する様子が見られた。その他が評価の記入を忘れて記述のみとなっていることについては、ABC評価をこの題材から取り入れた経緯もあり、今後自己評価表の項目を検討する必要がある。

次に、記述内容に着目すると、素材や道具の使い方など制作方法に関わる記述、形の表現に関わる記述、色彩の表現に関わる記述に分類することができた。（表1）これらの記述が見られる生徒については、造形的な視点をもって制作に取り組んでいると具体的に評価できる。

表1 自己評価表の記述内容の分類（一部抜粋）

記述内容	記述の具体
制作方法	顔と胴体をつけるものを（ボンド・粘土）どちらでつけるか迷った／絵の具の量に気をつけて綺麗な色にすることができた／歯ブラシを使ったのがよかった／乾いた粘土と乾いていない粘土がつきに良かった
形の表現	雑草の先の部分に悩んで／表情を変えることができた／きれいに丸くすることができた／爪あとができてしまった／茎で上手に支えられた
色彩の表現	色をマーブル模様にして工夫することができた／焼き目をうまく作れた／中を黄色にしてリアルにした

「できたこと」に関する記述内容が「○○（具体物）をつくった」「○○（具体物）ができた」という表現になっている生徒も見られた。生徒の造形的な感覚を養うために、具体物をつくる制作過程で「どのように工夫してつくったのか」について造形的な視点をもって自分の考えを記述できるよう力をつけていきたい。指導をする中で、造形的な視点を意識できるような導入やアドバイスを今後も継続し、教師がもつルーブリックの基準を生徒と共有しながら、経験を積み重ねることでその力をつけていきたい。

③ 題材について

本題材は生徒が「自分らしい感性にもとづいた美意識をもち、身の回りのさまざまな対象や環境に主体的に働きかけながら学校生活をよりよくしていこうとする」態度を育むことを目指して設定した。カプセルトイは生徒にとって身近なものであり、おもちゃという性質からわくわく感や発想の自由度を感じられる題材であったようである。宣伝したい東雲中学校のクラスター活動についても、普段から生徒は意欲的に取り組んでいるため、それぞれのクラスターに対する思い入れをどのように表現するかについて意欲的に考えることができていた。

制作においては、粘土の質感を楽しんだり、色を出すための工夫をしたりする様子も多く見られた。1 つ形のベースができると他のパターンの形も考えやすくなり、楽しみながら発想を広げていた。課題として、粘土制作の作品の大きさの設定が挙げられる。題材設定の際には、ミニチュアの世界を楽しむことをねらった部分があり、カプセルに入る大きさの作品に設定した。しかし、生徒の手の感覚に対する作品の大きさとしては扱いづらい面があった。爪楊枝、トランプのカードを準備して小さな形に取り組めるようにしたもの、細かい造形を扱う難しさを感じている様子が見られた。大きさのイメージは共有しやすかった一方で、造形の力をつけるための大きさの設定については再考の余地がある。

題材の提示について、カプセルトイを今後どのように生かすかについての展望が少し弱かった。生徒が提案したカプセルトイを実現することができれば、生徒が自分たちの身の回りのことにより主体的に働きかける意欲につながる。例えば 3D プリンタでトイを量産し、学校説明会などで実際に使ってもらうことも考えられる。生徒が目的を明確にもって主体的に資質・能力を身に付けていけるよう、生徒と題材との出会いをより工夫改善していきたい。

1年()組()番 名前() 美術 No.14

カプセルトイの提案 計画表

【テーマ】東雲中学校のクラスター活動を宣伝するためのカプセルトイの提案

◆◆1. パターンのアイデアスケッチ◆◆

◆◆2. 計画表◆◆

授業	やることリスト	メモ
①②構想を練る		
③試作品をつくる		
④試作品をつくる		
⑤試作品をつくる		
⑥試作品をつくる		
⑦⑧提案する		

資料2 授業において生徒が自己評価表に記述した内容

(※記載は生徒の記述のまま)

前時の「次に頑張ること」についての記入	評価	本時の「できたこと」についての記入
バラバラになった部位をくっつける	B	付ける足と手を作る事が出来た 粘土で全てつける事ができると思ったが意外とつけにくい事がわかった 顔と胴体をつけるものを(ボンド・粘土) どちらでつけるか迷った
顔のパーツをつくることです	A	白い粘土をきれいに丸くすることができました
粘土の知識を高める	未記入	コンセプトがあまり浮かばなかった サイズ感が掴めなかった
次の時は粘土に入れる絵の具の量に気をつけて頑張りたいです。	A	今日は絵の具の量に気をつけて綺麗な色にすることができました。
次につくる目や口は細かいからヘラなどを活用してかたちを整えたい。	B	足や腕などを理想通りにしっかりくっつけることができた。
先端を作る。火の部分を紫色にする。	A	爪楊枝で回転しながらとれるようにした。
きゅうりの手や足をつけて完成させる。	未記入	形を作れた いろいろな形にデザインが変わって面白かった
・他のクラスターも作る ・魂の細い部分がしっかりくっつくように工夫する。	A	他のクラスター(パープル)の物を作り完成することができた。
完成の目処を立てる	A	桜の花びらが四枚できた。
②, ③などの様々なパターンの雑草ちゃんを作る	C	今回雑草ちゃん②の形を大体作り終える予定だったが, 雑草の先の部分に悩んであまり進まなかった。色作りはできた。
一体目の手と足をくっ付けて, 二体目を作りたいです。	未記入	一体目を完成させることができました。また二体目の制作に取り掛かれて良かったです。
手足を作る。	未記入	目の改良 水を多くつけすぎて大変なことになりましたが, 無事なんとかめをつけられました。
顔を付けること。	未記入	1 体目を完成させること。ペンで目をかいたときにかきにくかったけど上手にかけて良かったです。
このレパートリーを増やしたい	A	クラスター活動であるリレーのボタンを持たせることができた。二体目を作ることができた。表情を変えることができた。形は箸置きとして使えると思った
顔を作る	未記入	新しいものを作ることができた。色をマーブル模様にして工夫することができたので良かった。
2 個目の 4 割ぐらい	未記入	バランスの制作

他の試作品ができていないので形を整えながら綺麗に作る	B	爪あとができてしまった 形が歪になってしまった
顔をつけること。	B	顔のパーツをつくることができた。」足もつけられた。靴を作ったら、立てるようになった。
本格的に作る	A	土台が完成 みどりができた 歯ブラシを使ったのがよかった
次は白虎の顔など細かいところを粘土で形作って、出来れば2つ目を作っていきたい。	C	白虎の鼻や口などのパーツの試行錯誤で終わってしまった。
試作品2号の完成3号に入る	A	試作品の完成 焼き目をうまく作れた 薄くするところの加減が難しかった。
りんご飴の形を作ることを頑張りたい。	未記入	りんご飴の形を作れた。中を黄色にしてリアルにした。爪楊枝がりんご飴の棒の部分みたいでよかった。
形を大体作れるようにする	B	顔の表面ができた
色を工夫しながら工夫する。	未記入	完成させた。
二つ目を作る	B	2つ目までいかなかったけど工夫できた
今日作ったものに口を付け足したい。	未記入	今日できたことは、足を修復して、口もつけることができた。
目と羽を作る。	A	耳と角とひげをつけることができた。耳の違和感を消すことができたので良かった。
6色作る。見通しを持って制作する。コーンを作る。	AAB	自分が作りたいものを表すための見通しを持って作る。味を六色作る。コーンを作る。
トロフィーなどの小物をもっと細かく作りたい。	B	玉入れの玉や、ほうきなど細かく作ることができた。
形作り お餅に近づくようにする	B	粘土に色をつけた
もっと鯉のぼりっぽくする	未記入	めだまをつくれた
茎を丈夫に作って、お花を支えたい。また、絵の具の量に気を付けたい。	A	イエローとレッドのお花を茎で上手に支えられたこと。
今は普通のを作ったので、色々なパターンで作りたい。でも丁寧にする事が大切。	A	色々なバージョンを作れた。自分の仲間を作ることができた。
綺麗にする	A	もう一個を大体作れた。
てあしのかんせい	A	花と種子の接着 乾いた粘土と乾いていない粘土がつきに良かった
完成させること	未記入	目とボールなどをつけて完成させることができました 色が混ざってしまうところがあり難しかったです
もう一度形を整える。顔面を完成させる。効率よく作品を作る。	A	樹脂粘土でカプセルトイの試作品を作ることができた。揺らぎをつくることは出来なかったがかなり可愛い作品が出来た。道具を工夫して作ることができた。どこにどのような色をつけ

		るのか、どんな形をどこにつけるかなどの選択が難しかった。
1つ目を完成させる。	B	目をつくることができた。粘土がすぐに固まってしまうので水をしっかり調節しないといけないなどおもった。
色つけしかできなかったなので、形作り頑張りたい	A	色つけもできてきちんと形が整えられた
龍の本体の製作	A	胴体完成しました